

# ビット・トレード・ワン社提供のラズベリー・パイ専用 学習リモコン基板(型番:ADRSIR)用のツール  
# 著作権者:(C) 2015 ビット・トレード・ワン社  
# ライセンス: ADL(Assembly Desk License)

利用する方のことを考え、3種のツール(第2版)を提供します、それぞれ独立していますので、使いやすいツールを1つ使用願います。  
1版リリースでは、python2、python3が混在していましたが、ネットへの投稿を参考にさせていただき、python3に統一しました。

(ネットで投稿してくださった方、ありがとうございます)

尚、これらのツールは、エラー処理が不十分です、特に、学習リモコンにリモコンデータを学習していないときにはエラーのため、不安定な動作になります、事前に、学習願います。

また、ラズパイ3の使用の時、十分余裕のある電源の使用を、お勧めします。

弊社として上記のこのツールを公開する他、下記の有志ツールも発表されております。

ADRSIR(ビットトレードワン製赤外線送受信機)用のライブラリ

<https://github.com/tokieng/adrsirlib>

## ツール修正内容

- 1:IR-remocon02-commandline.pyの“t”コマンド不具合修正
- 2:ツール1,2,3の使用言語をPython3に統一
- 3:IR-remocon03-dirbase.pyにラズパイ3のリモコンデータファイルから、学習リモコン経由で直接、赤外線を送出するコマンド“t”を追加

## 1)コマンドベース ツール

マニュアルコマンド入力により、動作を確認しながら、ファイル単位で動かします、デバッグの時便利です。

実行方法: ./IR-remocon01-commandbase.py

# \*\*\*\*コマンドベース 実行コマンド ファイル単位

#読み込みコマンド(r:read):、読込先の記憶No.(memo\_no)、保存ファイル名(filename)

#書き込みコマンド(w:write):、書込先の記憶No.(memo\_no)、読込ファイル名(filename)

#送信コマンド(t):、読み込みファイル名(filename)

## 2)コマンドラインツール

LINUXのコマンドラインから、パラメータベースで動かします、シェルスクリプトに習熟している人に適します。

実行方法: ./IR-remocon02-commandline.py r 0

\*\*\*\*\*使い方:コマンドライン ツール

# 呼び出し例 python /home/pi/I2C0x52-IR/IRPI.py r 0 "5D01AB00190016001700...."

#学習リモコン→ラズパイ 読込コマンド(r):、メモリNo.(0-9)、応答:データ argc==3

#学習リモコン→ラズパイ 書込コマンド(w):、メモリNo.(0-9)、データ argc==4

#学習リモコン→ラズパイ 書込コマンド(t):、データ argc==3

## 3)ディレクトリ単位処理ツール

ディレクトリ単位に管理するときに便利です、NODE-RED等の環境から利用しやすくしています。

実行方法: ./IR-remocon03-dirbase.py rd testdir

#PIC→ラズパイ ディレクトリ読込コマンド(rd:read directry):、保存ディレクトリ名(dir\_name)

#PIC→ラズパイ ディレクトリ書込コマンド(wd:write directry):、読込ディレクトリ名(dir\_name)

#PIC→ラズパイ ファイル送信コマンド(t:transfer):、読込ファイル名(filename)

ファイル名: nod-red-program\*\*\*.json

NODE-REDのサンプルです、このファイルを、NODE-REDにコピーして使用してください。



